



▲ 8月4日 全国離島交流館中学生野球大会 出陣式

令和7年8月18日(月)～21日(木)
沖縄県宮古島市で「国土交通大臣杯第16回全国離島交流中学生野球大会(離島甲子園)」が開催されました。全国の離島から9都県・24チームが参加し、上島町からは岩城中学校と弓削中学校の生徒19名で編成されたチーム「KAMINMA」が出場しました。

本大会は、元プロ野球選手で「まさかり投法」により通算215勝された、故・村田兆治氏が、引退後に「離島球児たちにもっと大きな夢や目標をもたせたい」という思いから提唱し、実現したものです。離島球児たちにとつての「もうひとつの甲子園」として位置づけられ、地理的環境から島外との交流機会が限られる全国各地の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流が行われています。

トーナメント戦では沖縄県竹富町の「竹富町選抜」と対戦し、延長戦タイブレークのすえ2対3で惜敗。交流試合では長崎県五島市の「上五島ファイブスターズ」と対戦し2対17で敗れました。結果は悔しいものになりましたが、どちらの試合も全力プレーで、多くのチャンスをつかむ場面がありました。離島甲子園に向けてのチーム練習や遠征での試合経験、全国の離島の仲間たちとの交流を通じて、参加した選手たちの成長する姿を見られました。

次回は島根県隠岐の島町での開催が予定されています。来年のさらなる健闘を期待しています。



「夏の天日を感じながら、中世の塩づくりに挑戦してみよう!」

令和7年8月24日(日) 8:30～15:30 晴れ

上島町弓削鎌田(塩田) 参加者 18名

第4回 史跡弓削島荘遺跡探訪・散策講座

8月24日(日)、弓削鎌田地区の鎌田塩田において、第4回史跡弓削島荘遺跡探訪・散策講座が行われました。

講座では、「夏の天日を感じながら、中世の塩づくりに挑戦してみよう!」と題し、揚浜式製塩を体験する場として復元整備されている弓削島の鎌田塩田において、平安時代後期から鎌倉・室町時代にかけて弓削島で行われていた塩づくりの工程を実践しながら、町教育委員会の学芸員がその技術と歴史について解説しました。

昨年10月にも鎌田塩田において塩づくりの講座を開催しましたが、その日は曇り空で気温が低く、塩づくりに適さない気象条件となりました。8月の開催となった今回の講座当日は、

朝から晴れ渡り気温が高く、絶好の塩づくり日和となりました。

参加者は、製塩用具を使用して、海水運び、潮撒き、砂の乾燥、鹹砂(かんしゃ)集め、鹹水(かんすい)採り、塩焚きなどの揚浜式製塩の工程を体験しました。

「潮汲み3年、潮撒き10年」といわれるほど、塩づくりに熟練の技術を要します。一日の講座でしたが、多くの参加者に塩づくりの楽しさや苦勞、奥深さの一端を感じていただくことができました。

また、空き時間に食塩水で黒い画用紙に好きな絵を描く体験教室を行いました。描いた絵が白く浮かび上がり、ルーペを用いて析出した食塩の結晶の形を確認しました。

塩は人間の生命に直結する大



切なものであり、家の台所にある身近なものです。一日の講座を通して、参加者の皆さんとともに塩について総合的に学ぶことができました。次回の探訪・散策講座にもご期待ください。

